

包摂する過程として捉えてきた。ところが、個人の思惑や選択に着眼すると、開発と発展を是とする中央の価値体系に追随しつつ、時代に応じた社会的地位の上昇を試みる人々の生のあり方が浮上する。歴史的な開拓移住の過程にみるように、「よりよい生活」を求める人々にすれば、出家は社会移動の重要な手段であり続けており、仏教は多数派の社会への参入を媒介するものとなっている。

本発表では、移動と人々の関わりの連鎖を生活保障の資源としてきた実践を浮き彫りにすることで移動に伴って変容し再編されつつある村落社会の様態を明らかにするとともに、人々の関わりの集積として「民族」と「地域」を捉える視点についても言及したい。

#### ジャワにおける再イスラーム化と隣人間関係—儀礼変化と女性の役割を中心に

塩谷もも (東京外国語大学)

本発表は、ジャワにおける再イスラーム化のミクロのレベルでの進行を、儀礼変化の事例と女性に焦点を当てながら考察することを目的とする。先行研究のなかで、ジャワにおいて、儀礼は隣人を中心とした人々の結びつきを考察するのに有効な対象とされてきた。ジャワの儀礼は、先行研究で関心を集めてきた共食儀礼クンドゥリ (スラマタン) に代表されるように、男性は儀礼の場、女性は儀礼準備に参加するという分業が明確で、儀礼の場に注目した分析がなされてきた。しかしながら、儀礼を通じた人々のつながりを考察する際には、儀礼準備の場も含めたより広い視点で儀礼を考察する必要があると考えられる。そのため、本発表では中部ジャワのソロ市郊外に位置する一町内会を対象として、準備の場も含めて儀礼の考察を行う。

調査地は、ムスリムが圧倒的多数を占めるが、イスラームの「派」による違い、新住民と旧住民の違いが存在しており、またモスクごとの特徴もある。ここで特に再イスラーム化の流れを促進しているのは、中東に留学経験のある新住民の男性、彼を支持する現在の町内会長などである。彼らが主張する宗教実践に関する主張は男性間で反発を招き、時に直接的な衝突がおこることもある。再イスラーム化の影響は誕生・結

婚・死を中心とする人生儀礼の場にも及び、非イスラーム的とされる要素が排除され、新たにイスラーム的とされる要素が付け加えられるという現象が起こっている。実際の儀礼では、2つの要素が混ざり合った状態で行われているが、中でも位置づけが複雑なのは死後儀礼である。本発表では、地域単位で行われる死後儀礼サドラナンを事例としてとりあげる。

サドラナンは、断食月前にモスクを会場として隣組単位で行われるもので、祖先に祈りを捧げることが目的で、男性のみが参加する。2007年と2003年に観察した儀礼、さらに2003年以前の同儀礼を聞き取りに基づいて比較することで、儀礼変化とその背景について考察を行う。この儀礼はイスラームの教えに基づかないとされること、また参加者の中で多数派であった年長者たちが亡くなることで、参加者が減少傾向にある。儀礼の中で行われる宗教講話では、この儀礼が非イスラーム的でないことが強調され、形式も非イスラーム的な要素とされる共食儀礼クンドゥリ、供物の意味をもつ料理が省略されるように変化してきている。

一方、儀礼の準備を担当する調査地の女性たちは、宗教講話会に積極的に参加する、髪をスカーフで覆いイスラーム服を着用する人が増加するなど、一見すると再イスラーム化とつながりの強い存在である。儀礼の準備を行う女性たちは、非イスラーム的とされる供物の意味を持つ料理の組み合わせを別のものに代えるなど、再イスラーム化の流れと折り合いをつけながら、儀礼とのつながりを保っている。このように再イスラーム化の現象に対し、女性はより柔軟に対処していると考えられる。

#### インドネシア政変過程における合意形成

増原綾子 (東京大学)

本報告では、1998年5月に起きたインドネシア政変において「改革」(Reformasi)とスハルト大統領の即時退任をめぐり、改革勢力と体制内グループとの間で行われた合意形成の過程を説明する。

政変については、通説ではこれまで権力闘争の側面がもっぱら注目されてきた。すなわち、改革勢力と政府との対峙や、国軍内部のライバル関係などである。政変過程においてこうした権力闘争の側面は決して